（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぱんはうすさくら新松戸教室　児童発達支援			
○保護者評価実施期間	2025年11月　20日	～	2026年　1月　10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	45	（回答者数）	41
○従業者評価実施期間	2026年　1月20日	～	2026年 2月　1日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	11	（回答者数）	11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　2月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の発達特性や、状況、日頃の様子についてご家族と共有しながら、保護者や関係機関との連携を取りながら支援を進めていると信頼を得ていること。また、保護者の悩みや特性に対してのご家庭での対応についても適切に助言していると指示を得られていること。	児童の発達の段階や特性、タイプなどは常に職員と周知した上で必要な支援を考え、統一した支援を行うようにしている。ご家庭や幼稚園・保育園、他事業所とも積極的に連携をとり、に必要な支援、要望を探り、すぐ支援につなげるのを意識している。	職員の特性に対する知識・対応力がどの職員も同じようにできるよう、職員全体で研鑽に努め、特に環境設定については常に調整を行っている。職員の意識やスキルアップの為日々の振り返りをしっかり行う。
2	保育士・児童指導員・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ことば音楽療法士・アンガーマネジメントキッズインストラクターが常勤として在籍しチームを組んで支援にあたってること。より専門性の高い支援を目指していけること。	プログラムの立案を、それぞれの専門性を活かし行っている。日々の療育の振り返りを行い、各専門職の見解を共有している。	集団で効果のある活動、個別で効果のある活動を取り混ぜたプログラムを取り入れていく。 年間計画をたて、スモールステップで着実に発達のサポートを行っていく。
3	保護者の会があり、事業所の活動への協力体制に恵まれている。保護者のニーズをくみ取りやすい。	定期的に教室を保護者会に開放し、職員も参加したりしながら児童の支援の協力体制を作っている。 保護者・事業所双方協力のもと、様々な勉強会や座談会、夏祭りや運動会などのイベントを開催している。	保護者・事業所がともに学べる取り組み（専門家を呼んでの講演会など）や地域との連携を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室のスペースが十分に確保されているか、発達特性にあわせたバリアフリー環境、安全を確保した環境で支援が行われているか、という教室内の環境等に対して、保護者への周知が低い。	教室内の環境を保護者が見る機会がほとんどなく今年度は面談時、活動している様子をご覧いただけると案内を行ったが、周知不十分だったのだとわかった。	引き続き面談時に環境についてお見せするとともに、防災用品も完備していることや、普段の活動の様子をSNSで発信するなどして、安全を確保した環境で支援していることを周知していく。
2	職員の配置が十分であり、また専門的知識をもつ職員が支援にあたっているにもかかわらず、不安視されている。	専門的支援の個別なども数名に対し行ってはいるが、スペースや送迎などの都合上、ニーズに対し十分な対応には至っていないこと。	専門的支援の個別対応がしやすいスペースの調整。 活動プログラムの見直し。
3	定期的なおたより、ホームページ、SNSでの発信についての内容や頻度について不明なことがわかった。	年に数回定期的にお便りを配布し、基本手渡ししているが、あまり知られていないのと、SNSの発信もし、お便りにも載せているが周知が低い。頻度についても満足のいく結果ではなかった。活動の様子をSNSや日頃のリトムでしかわからないため、様子を知りたいという気持ちの現れだと感じた。	SNSで発信していることは今後も周知していくとともに、頻度は変わらずとも様子がわかるような工夫をする。また、リトムの書き方を振り返ると、活動児の一人一人の様子が書かれていないことも原因と考えられるので、一人一人の様子をわかりやすく伝えるように職員に周知し徹底していく。

（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぱんはうすさくら新松戸教室　放課後等デイサービス			
○保護者評価実施期間	2025年11月　20日	～	2026年　1月　10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	49	（回答者数）	44
○従業者評価実施期間	2026年　1月20日	～	2026年 2月　1日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　2月28 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の発達特性や、状況、日頃の様子についてご家族と共有しながら、保護者や関係機関との連携を取りながら支援を進めていると信頼を得ていること。また、保護者の悩みや特性に対してのご家庭での対応についても適切に助言していると指示を得られていること。	児童の発達の段階や特性、タイプなどは常に職員と周知した上で必要な支援を考え、統一した支援を行うようにしている。ご家庭や学校、他事業所とも積極的に連携をとり、に必要な支援、要望を探り、すぐ支援につなげるのを意識している。	職員の特性に対する知識・対応力がどの職員も同じようにできるよう、職員全体で研鑽に努め、環境設定や合理的配慮を考えながら日々の支援につながるよう、職員の意識やスキルアップを行う。
2	プログラムの工夫でこどもたちが楽しく、それぞれの発達に合った支援を提供できていると指示を得ていること。それにより、保護者からも利用児童本人も楽しく通うことができていること。また、職員が保護者に寄り添いながら支援していると安心してお通いいただけている。	プログラムは継続したいもの、固定かしない、また時期をずらして思い出しのように組んでいる。職員が前職の経験などからもアイデアを出している。	今後は目的、ねらいを定めてプログラム案を練り、それぞれの発達特性に合わせて、段階を踏んで経験できるよう、職員がやってみたいことではなく、児童の発達を促すことを念頭に考えていく姿勢を持っていく。
3	保護者の満足感が高いことと、こどもたちが生き渋ることなく毎回の利用を楽しみにしている。	保護者からの相談や要望にはすぐに対応するだけでなく、こどもたちがこぱんに行きたいとお家で話すことが保護者の安心につながると考えているため、日々の支援を丁寧に、また活動を楽しく、こどもたちのよいところをたくさん見つけてほめていくことを職員で常に共有している。	専門的に支援していること、安心して過ごせる環境設定をしていることなどが保護者に伝わるよう、職員の対応能力を上げるとともに、こどもたちが毎回楽しかったと帰宅できるよう、一人一人の個性に向き合い、その子に合った支援を提供し続けられるよう職員みんなで研鑽していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室の素ベースが十分に確保されているか、発達特性にあわせたバリアフリー環境、安全を確保した環境で支援が行われているか、という教室内の環境等に対して、保護者への周知が低い。	教室内の環境を保護者が見る機会がほとんどなく今年度は面談をあえて子供たちが過ごすスペースで行い、家具の配置を変えて広いスペースと学習スペースを作ったと伝えたが、周知不十分だったのだとわかった。	引き続き面談時に環境についてお見せするとともに、防災用品も完備していることや、普段の活動の様子をSNSで発信するなどして、安全を確保した環境で支援していることを周知していく。
2	職員の配置が十分に配置されているのか、また職員の支援が専門的な知識を持っているのか、不安視されている。	指導員が保護者と接する機会が送迎の時で、何かあった時に保護者の相談を受けたり、対応して助言したりするのが児発管のため、職員が保護者と話す機会が少ないことが原因かと考える。	日々の様子を伝える際の伝え方を特性や発達を絡めてお伝えするよう、職員の特性理解やその対応力を底上げしていくとともに、児発管だけでなく職員が保護者の悩みを聞いて助言できるくらいの
3	定期的なおたより、ホームページ、SNSでの発信についての内容や頻度について不明なことがわかった。	年に数回定期的にお便りを配布し、基本手渡ししているが、あまり知られていないのと、SNSの発信もし、お便りにも載せているが周知が低い。頻度についても満足のいく結果ではなかった。放デイは活動の様子をSNSや日頃のリトムでしかわからないため、様子を知りたいという気持ちの現れだと感じた。	SNSで発信していることは今後も周知していくとともに、頻度は変わらずとも様子がわかるような工夫をする。また、リトムの書き方を振り返ると、活動児の一人一人の様子が書かれていないことも原因と考えられるので、一人一人の様子をわかりやすく伝えるように職員に周知し徹底していく。